

## 正法寺

正法寺は、仏法寺山の緑豊かな麓に位置していて、無限の光と命を持つ阿弥陀仏が祀られています。秋には、この禅寺の境内、特に入口付近は、紅葉の木々で鮮やかな赤色に染まります。

## 歴史

お寺の伝説によると正法寺は、744年に安積親王（728～744年）の古墳の近くに若き王の冥福を祈るために創建されました。創建者の行基（668～749年）は仏教を広め、公共事業を支援するために全国を旅したことで知られる著名な僧侶でした。この寺はかつて山頂にある大きな寺院でしたが、14世紀初頭の内乱の時期に荒廃しました。

17世紀半ば、正法寺は仏光寺城主田村家によって山麓に規模を小さくして再建されました。田村家の要請により、永源寺の住職如雪文巖（1601-1671）が臨済宗永源寺派として正法寺を再興しました。この寺の重要な後援者の1人は、後水尾天皇との結婚により和束荘地を与えられた徳川和子（東福門院、1607-1678）でした。

## 寺の境内

表門と仏殿は京都府の有形文化財に指定されています。門はもともと京都仙洞御所から徳

川和子が寄進したもので、仏殿は17世紀半ばの再建の時からのもので、仏殿の中には、江戸時代（1603～1867年）に作られたと思われる阿弥陀如来の坐像があります。

仏殿の右側には、道教、神道、仏教、その他の伝統を組み合わせた民間信仰である庚申にとって重要な神を祀る小さな堂があります。庚申堂の横には、十二支の動物をそれぞれ1つずつ抱えた、比較的新しい丸い顔の地蔵菩薩像12体があります。小さな階段を上ると、旅人や子供の守り神として崇拝されることが多い地蔵像を祀る地蔵堂があります。

本堂は通常は非公開ですが、入りたい人は寺の職員に尋ねることができます。中には慈悲の菩薩である聖観音像が祀られています。この像は、徳川和子が正法寺に寄進する前に自分の殿室で崇拝していたと言われています。

#### **四季折々の美しさ**

寺への参道には、紅葉の名所としても知られる滋賀県の総本山永源寺から寄進されたとされる、青々とした紅葉の木々が植えられています。秋には紅葉が赤やオレンジに色づき、大きなイチョウの木が鮮やかな黄色の彩りを添えます。境内にはツツジ、アヤメ、沙羅など、季節の花々が咲き誇ります。

#### **アクセス**

和束山の家バス停から大きな交差点を左折し、徒歩約8分。